

【第65回企画展】

幕末を駆け抜けた彦根藩士

—官軍となった井伊の「赤備え」—

平成29年7月31日発行

編集・発行

滋賀県県政史料室



幕末維新期の彦根藩士といえば、大老井伊直弼の側近である長野主膳や宇津木六之丞の名がよく知られています。彼らの名は、吉田松陰ら尊攘派の志士を弾圧した安政の大獄と重ねて記憶され、幕府の屋台骨を支える彦根藩というイメージを強めています。しかし、安政7年(1860)3月に直弼が江戸城桜田門外で暗殺された後は、彦根藩では「勤王派」が台頭し、長野・宇津木を肅清する大きな政変が起こりました。今回の展示では、そのような知られざる彦根藩士の人物像に迫りたいと思います。

【展示概要】

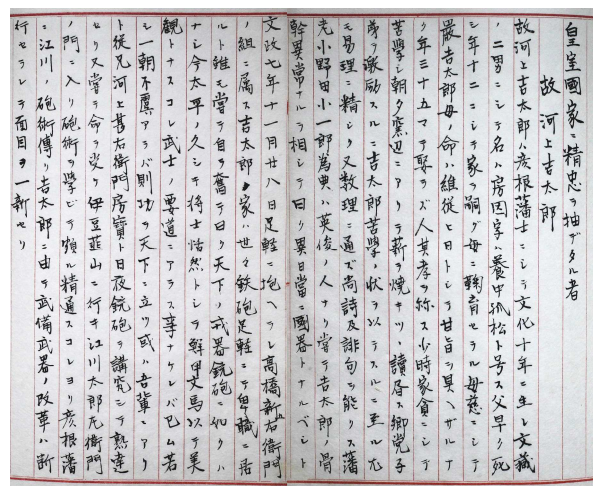
期間 平成29年7月31日(月)～10月19日(木)
会場 県政史料室(滋賀県庁新館3階 県民情報室内)
日時 月曜日～金曜日(祝日を除く)
午前9時～午後5時
内容 滋賀県歴史的文書20点

文久二年の政変

安政七年（一八六〇）三月三日、大老井伊直弼が桜田門外の変で暗殺されると、四月二十八日、まだ十三歳の直憲（幼名愛鷹）が、井伊家の家督を相続します。幼い藩主に代わり、藩政の実権を握ったのは、家老岡本半介と「至誠組」と呼ばれる下級藩士集団でした。元来岡本は、安政の大獄で処罰された一橋慶喜のグループと親交があり、直弼の側近であった国学者長野主膳や、宇津木六之丞（側役兼公用人）と政治的立場を異にしていました。

文久二年（一八六二）四月、一橋派の島津久光（薩摩藩主の父）が、藩兵千名を率いて上京し、七月に慶喜を將軍後見職、松平春嶽（前福井藩主）を政治総裁職に就かせると、彦根藩内でも、藩政刷新を求める声が高まります。河上吉太郎①・北川徳之丞・外村省吾・渋谷驪太郎②ら至誠組は、長野主膳の入牢を要求し、八月二十四日には、「朝敵にひとしき逆徒」への加担を止めるよう、岡本半介邸に押しかけました。この訴えを受け岡本は、長野を二十七日に処刑し、閏八月一日には、宇津木六之丞も拘禁します（十一月二十七日に処刑）。閏八月四日、幕府は長野の処罰を彦根藩に命じますが、十二日同藩は、既に断罪に処したことを報告しています。このような彦根藩の政変は、新しく発足した一橋政権の意向を「忖度」した結果だといえるでしょう。

しかしながら、幕府は閏八月一日、松平容保（会



①「河上吉太郎の履歴書」【大え 62 (28)】

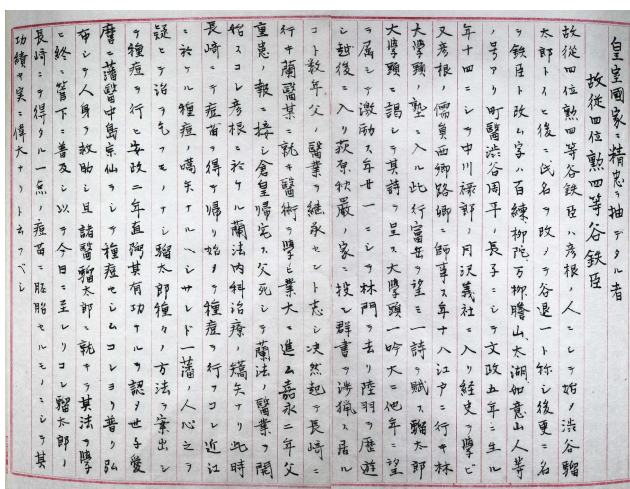
津藩主）を新設の京都守護職に任命し、二十日には彦根藩から京都守護の任を剥奪します。さらに二十四日、同藩に五万石の領地替えを命じました。

このような幕府の厳しい処分は、彦根藩内に大きな動揺をもたらした。尊攘派が主導権を握る京都では、彦根藩拳兵の風説が流れます。そのため、長州藩の伊藤俊輔（博文）や土佐藩の谷守部（干城）らが、情勢を探りに次々と彦根を訪れました。渋谷驪太郎ら至誠組の四人は、その応接掛に拔擢され、藩政を刷新した彦根藩の新たな立場を説明しています。

その一方、十月下旬には、幕府の処置に抗議して彦根藩士十名が脱藩。その内の一人加藤吉太夫は、十一月七日、老中井上正直邸に赴き、喉を突いて自殺を図りました。その際、提出された嘆願書の差出人名「岡村吉之丞」は、**岡本半介・外村省吾・河上**

吉太郎・北川徳之丞の四人の姓名からとったものでした。この嘆願書では、既に彦根藩は「姦臣」長野・宇津木らを処罰しており、新政権が行う「攘夷の御新政」のために尽力するので、処分を取り消してほしいと訴えています。しかし十一月二十日には、さらに十萬石の領地召し上げが決まり、彦根藩は未曾有の藩難に直面します。

そこで岡本半介は、文久二年十二月、旧領回復の道を探るため、至誠組の四人とともに上京します。彼らは朝廷や長州・土佐両藩などと積極的に交わり、藩政を刷新した彦根藩の「誠意」を伝えることに努めました。このように、直弼亡き後の彦根藩では、直弼時代の治世の否定を通じて、必死に同藩の地位浮上を図ろうとしたのです。



②「谷鉄臣（渋谷驪太郎）の履歴書」【大え 62 (30)】

彦根藩の明治維新

文久二年の政変以後、尊攘派諸藩との関係を強める彦根藩でしたが、翌三年八月十八日、長州藩が京都から追放されると、今度は幕府の命により、同派の鎮圧に動員されることになります。同年九月には、大和国（奈良県）で蜂起した中山忠光（公家）率いる天誅組の鎮圧、元治元年（一八六四）七月には、京都に攻め上った長州藩との戦闘におよんでいます（禁門の変）。同年十一月には、筑波山で挙兵した天狗党の鎮圧に動員されました。さらに慶応元年（一八六五）の第二次幕長戦争では、自ら先鋒を願い出て戦うも、西洋式軍備を整えた長州藩に大敗を喫しています。このように、幕府への従順な姿勢を示すことで、旧領回復を図ろうとする岡本半介でしたが、尊攘派諸藩と関わりの深い至誠組との溝は、次第に大きくなっていきました。

慶応三年十月、將軍徳川慶喜が大政奉還を行うと、彦根藩内では、旧幕府勢力の維持を主張する岡本半介と、朝廷權威の強化を唱える至誠組との対立が顕在化します。さらに十二月、王政復古のクーデターが起こると、岡本は徳川慶喜のいる二条城へ向かうことを主張しますが、渋谷駒太郎や新野佐馬助（古拙）は反対し、新政府への帰順が藩論となりました。慶応四年一月、鳥羽伏見の戦いが始まると、彦根藩は天津で京都防衛の任に就きます。その後桑名藩の征討に加わり、江戸開城後は下野国（栃木県）で、



③大東義徹（国立国会図書館提供）

旧幕臣の大鳥圭介隊と数度にわたって交戦しました。特に最大の激戦地であった小山宿では、青木貞兵衛率いる半小隊が、脱出不可能と観念して、白兵をもって敵中に斬り込み、全員討ち死にするという壮絶な最期を遂げています。さらに彦根藩は、白河（福島県）へ向かい、会津攻撃にも参加。その多大な戦功から、政府からの賞典も、薩長土に継ぐ三万石が下賜されています。

明治元年（一八六八）十月二十八日、新政府は藩治職制を制定し、各藩の職制の統一を図ります。彦根藩でも藩制便覧を公布して、議行局・総教局・會計局・軍務局・刑法局の藩治五局を設けました。新政府が各藩から選出を求めた公儀人（立法諮問機関「公儀所」の委員）には、元家老の新野古拙が就いた後、戊辰戦争で活躍した小西信左衛門（大東義徹、③）や西村捨三（④）が就任しています。長年にわたり藩政を担ってきた岡本半介は役職を退き、明治三年五月には、谷退一（渋谷駒太郎）が、知事に次

ぐ役職である大参事まで上り詰めています。他の至誠組のメンバーも、新政府や藩の要職に就きました。このように彦根藩では、時の政権が変わる度に、藩政の担い手を大きく変えることで、激動の幕末情勢を何とか乗り切ってきました。しかし明治四年七月、廃藩置県により同藩は廃され、新たに彦根県が置かれます。さらに同県は、長浜県、犬上県と改称した後、翌五年九月に滋賀県に併合されました。その後、旧藩士たちが辿った道は様々ですが、幕末に培った経験や人脈をもとに、それぞれに新しい時代と格闘していったのでした。彼らの足跡は、大正期に作成された贈位関連書類に記されています。

《参考文献》

・『新修 彦根市史』第三卷（二〇〇九年）
・佐々木克編『幕末維新の彦根藩』

（サンライズ出版、二〇〇一年）



④西村捨三（国立国会図書館提供）

展示関連年表

＊『新修 彦根市史』第3巻をもとに作成。

元号	西暦	月	事項
安政 5	1858	9	梅田雲浜・橋本左内らが逮捕され、安政の大獄が本格化する。
安政 7	1860	3	井伊直弼が江戸城桜田門外で暗殺される。
万延元	1860	閏 4	井伊直憲が彦根藩主となる。
文久 2	1862	4	島津久光が兵を率いて上京する。
		7	一橋慶喜が将軍後見職、松平春嶽が政事総裁職を命じられる。
		8	長野主膳が処刑される。
		閏 8	松平容保が京都守護職を命じられる。
			彦根藩が京都守護を免じられ、5 万石の上知・村替えを命じられる。
		11	加藤吉太夫が老中井上正直に嘆願書を差し出す。
			彦根藩が 10 万石の上知を命じられる。
文久 3	1863	8	八月十八日の政変で京都から長州藩が追放される。
			彦根藩が天誅組の鎮圧を命じられる。
元治元	1864	7	禁門の変が起きる。
		11	彦根藩が天狗党の鎮圧を命じられる。
慶応元	1865	7	彦根藩が長州出兵の先鋒を命じられる。
慶応 2	1866	6	第二次幕長戦争が始まる。
		8	幕府が休戦を発表し、翌月に彦根藩兵が安芸を退く。
慶応 3	1867	10	大政奉還が行われる。
		12	朝廷が王政復古を宣言する。
慶応 4	1868	1	戊辰戦争が始まる。4 月小山宿で彦根藩兵らが長島主介隊と激闘。
明治元	1868	10	彦根藩兵が東京に凱旋する。
明治 2	1869	2	彦根藩主井伊直憲が版籍奉還の上表を提出する。
明治 4	1871	7	廃藩置県が行われ、彦根県などが置かれる。
		11	北近江が長浜県に、南近江が大津県に編成される。
明治 5	1872	1	大津県が滋賀県に改称される。
		2	長浜県が犬上県に改称される。
		9	犬上県が滋賀県に合併される。

展示人物一覧

展示解説 幕末を駆け抜けた彦根藩士
平成 29 年（2017 年）7 月 31 日

編集・発行

滋賀県県政史料室

〒520-8577

滋賀県大津市京町四丁目 1 番 1 号

滋賀県庁新館 3 階 県民情報室内

Tel : 077-528-3126

Fax : 077-528-4813

Mail : kenmin-j@pref.shiga.lg.jp

【井伊直弼の側近】

①中川祿郎 ②宇津木六之丞（景福） ③長野主膳（義言）

【禁門の変で戦死】

⑧西郷正之介

【新政府への帰順を主張】

④河上吉太郎 ⑤北川徳之丞 ⑥外村省吾 ⑦谷鉄臣（渋谷驩太郎）

⑪江雪査（新野古拙）

【戊辰戦争で活躍】

⑨武節貫治（河手主水） ⑩青木貞兵衛 ⑬大東義徹（小西信左衛門）

⑫西村捨三 ⑭石黒務（伝右衛門）